

# AirMagnet Survey 8.2

# リリースノート

2012 年 1 月 25 日

## 目次

▪ はじめに .....	1
▪ 特記事項 .....	1
▪ 新機能 .....	2
▪ システムの要件 .....	14
▪ サポートされている Wi-Fi デバイス .....	15
▪ バグ修正 .....	16
▪ 既知の問題 .....	18
▪ リリース履歴 .....	19
▪ 技術サポート .....	19

## はじめに

AirMagnet Survey は、無線 LAN の構築者が 802.11 a/b/g/n 無線ネットワークの科学的に正確なサイトサーベイを実行するために必要とする全てのものが備わった、強力で使いやすいサーベイツールです。このリリースノートは、AirMagnet Survey 8.2 リリース（ビルド 25451）で追加された全ての主要な機能といくつかの既知の問題について扱っています。

※日本国内で利用できない無線 LAN アダプタについての表記が一部ございます。サポートされている無線アダプタの詳細なリストについては、

[http://www.toyo.co.jp/airmagnet/w\\_products.html](http://www.toyo.co.jp/airmagnet/w_products.html) の製品情報を参照してください。

## 特記事項

- USB 無線アダプタを使用する際、異なる USB ポートへ挿入したときは、Windows ワイヤレスプロファイルを再度作成する必要があります。プロファイルは、アダプタ自身ではなく、ポートに基づいて保存されます。
- 新しい Intel アダプタと USB アダプタをインストールする際は、オプションのチェックを外し、ドライバソフトとは別にアダプタのクライアントユーティリティをインストールすることが重要です。
- AirMagnet Survey を USB abgn アダプタを使用して Windows Vista、Windows 7 上で実行するためには、[https://www.airmagnet.com/my\\_airmagnet/public/documents/#3rdpartydriver](https://www.airmagnet.com/my_airmagnet/public/documents/#3rdpartydriver) にある USB abgn Vista-Win7 Installer.exe を使用して、USB abgn アダプタをインストールする必要があります。

- CAD イメージのある Cisco WCS プランナープロジェクトをインポートするときは、Cisco WCS にエラーが表示される場合があります。Cisco WCS Version 7.0 MR1 Release Note を参照してください。
- Ruckus Wireless 社 (<http://www.ruckuswireless.com/>) は、AP の配置に AirMagnet Survey のアクティブサーベイの使用を推奨しています。
- USB abgn アダプタを使用して SSID ごとにサイトサーベイを実行する場合は、ローミング制御 (信号) 機能を構成する必要があります。
- アクティブサーベイモードにおける 1000 ミリ秒の「遅延」オプションは、このリリースではサポートされていません。
- アクティブサーベイ中にローミングをテストするには、Windows の無線プロファイルを [自動的に接続する] に設定し、他のプロファイルを [手動で接続する] に設定する必要があります。設定しない場合、ローミング機能が有効になると、Windows が他のプロファイルをアクティブ化してしまう可能性があります。
- レポート画面の 802.11n 固有の部分 (動作モード、20/40 データなど) は、個々の AP に基づいており、AP ごとの全体表示レポートおよび AP レポートごとにのみ表示されます。
- Virtual Earth と統合するには、Internet Explorer 7 を Survey マシンにインストールする必要があります。 (21655)
- Survey の表示画面に配置された AP は、デフォルトでは「表示専用」です。したがって、シミュレーション画面で配置された AP の AP 出力設定は変更できません。 (22431)
- Windows Vista で AirMagnet Survey を実行しているユーザがアプリケーションを使用するには、管理者権限が必要です。
- AirMagnet Survey を実行中の動作中の外部 WiFi アダプタを取り外すと、アプリケーションが不安定になります。
- Microsoft Virtual Earth は、現在 Bing Maps です。その結果、Microsoft Virtual Earth を使用して、GPS ありの AirMagnet Survey プロジェクトを作成するためのマップオプションは、Microsoft Bing を使用するように変更されています。
- AirMagnet Survey は、Cisco WCS 統合のための既存のサポートに加え、現在は Cisco Prime NCS 統合をサポートしています。ユーザは、Planner プロジェクトを作成し、実環境の Survey データを Cisco Prime NCS へエクスポートするだけでなく、Planner プロジェクトも Cisco Prime NCS へエクスポートすることができます。

---

## 新機能

- 同時マルチサイトサーベイ機能
- カスタムレポート
- Meru AP 物理 MAC アドレスのサポート
- 無線 LAN スループットの受信範囲マップの機能
- Windows7 64 ビット版のサポート
- AirMagnet Survey Cisco WCS 統合
- 新しい AirWISE コミュニティ

- .PNG のサポート
- Iperf Survey アップ/ダウンリンク オプション
- その他の機能強化
- 新しい無線アダプタのサポート
- 未加工データの校正
- Fluke Networks® OptiView XG® Network Analysis Tablet

## 同時マルチサイトサーベイ機能

サポートされた2つの無線アダプタを同時に利用することができます。パッシブとアクティブ、パッシブとパッシブ、アクティブとアクティブなど、一度に複数のタイプのサーベイを実行できます。その結果、無線環境の包括的な調査を得るのに必要な時間を減らすことができます。

アプリケーションの起動時に、AirMagnet がサポートする無線アダプタが複数接続されている場合、サーベイに使用するアダプタの選択を促されます。



図 1：マルチアダプタの指定

複数のアダプタがアクティブで、アプリケーションの起動時に選択されている場合は、Survey の画面が図 2 に示すように、マルチカード機能を反映するように調整されます。

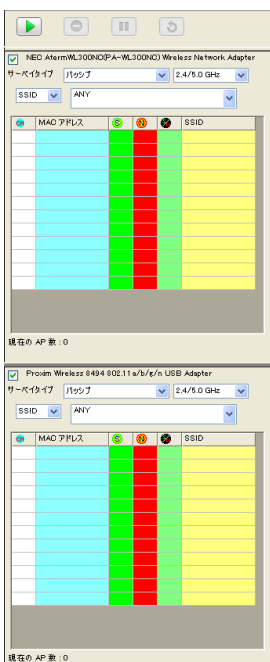


図 2：マルチサーベイ オプション

表 1：可能なサーベイの組合せ

	パッシブ	アクティブ	VoFi	lperf
パッシブ	○	○	○	○
アクティブ	○	○		
VoFi	○			
lperf	○			

表 1 に示す通り、いずれかのサーベイタイプを同時に実行できます。

パッシブサーベイはサポートされる他の 2 つのサーベイのいずれかの種類と組み合わせて実施することができますが、VoFi サーベイはパッシブサーベイとのみ実行することができます。サーベイタイプの選択がドロップダウンメニューのいずれかで行われると、2 番目のメニューでは最初の選択でサポートされているタイプのみを表示します。

### ● チャンネルスキャンの設定

各アダプタのためのカスタムのチャンネルスキャンオプションを指定するために、サーベイ構成メニューのスキャンタブは図 3 に示すように、若干修正されています。

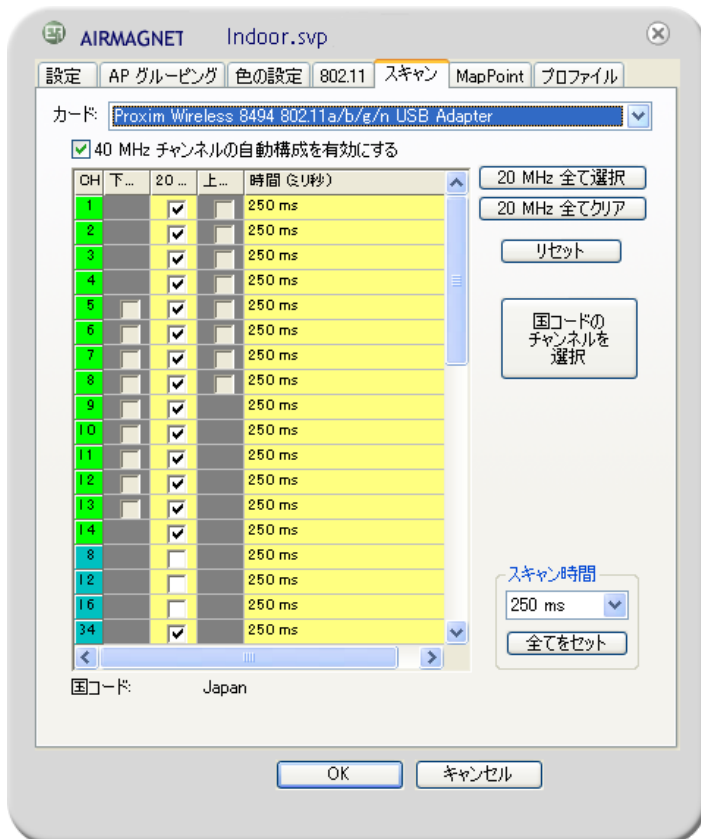


図 3：チャンネルスキャンオプション

各アダプタでスキャンするチャンネルを指定するためには、ウィンドウの上部にあるドロップダウンメニューを使用して、目的のアダプタを選択し、それに応じてチャンネルのチェックボックスをオンにします。

#### ● サポートされるアダプタの組合せ

マルチアダプタがドライバの制限により、キャプチャするためにほとんどのケースでは、複数の異なるカードを使用する必要があります。例えば、Intel 5300 内蔵無線アダプタを搭載したノート PC にも下記いずれかのアダプタを利用することができますが、同時に 2 つの Intel 5300 カードを使用することはできません。

- Proxim ORiNOCO 8494-US/WD/JP (マルチアダプタの使用に推奨)
- DLink® Xtreme N™ Dual Band USB アダプタ(DWA-160) バージョン A1 と A2
- Ubiquiti SR71 USB WLAN

注意: 上記アダプタのいずれの組合せも、同じアダプタ同士でも、同時に使用できます。

次のアダプタもマルチアダプタモードで動作します：

- AirMagnet 802.11 a/b/g/n 無線 PC カード
- FNET 802.11 a/b/g/n 無線 PC カード
- Intel WiFi Link 4965/5100/5300
- Nec Aterm WL300NC a/b/g/n 無線 PC カード


注意：上記アダプタはマルチアダプタの使用をサポートしますが、同一アダプタの同時使用はサポートしません。これらは、先に述べた USB オプションのいずれかと一緒にマルチアダプタモードで利用することができます。

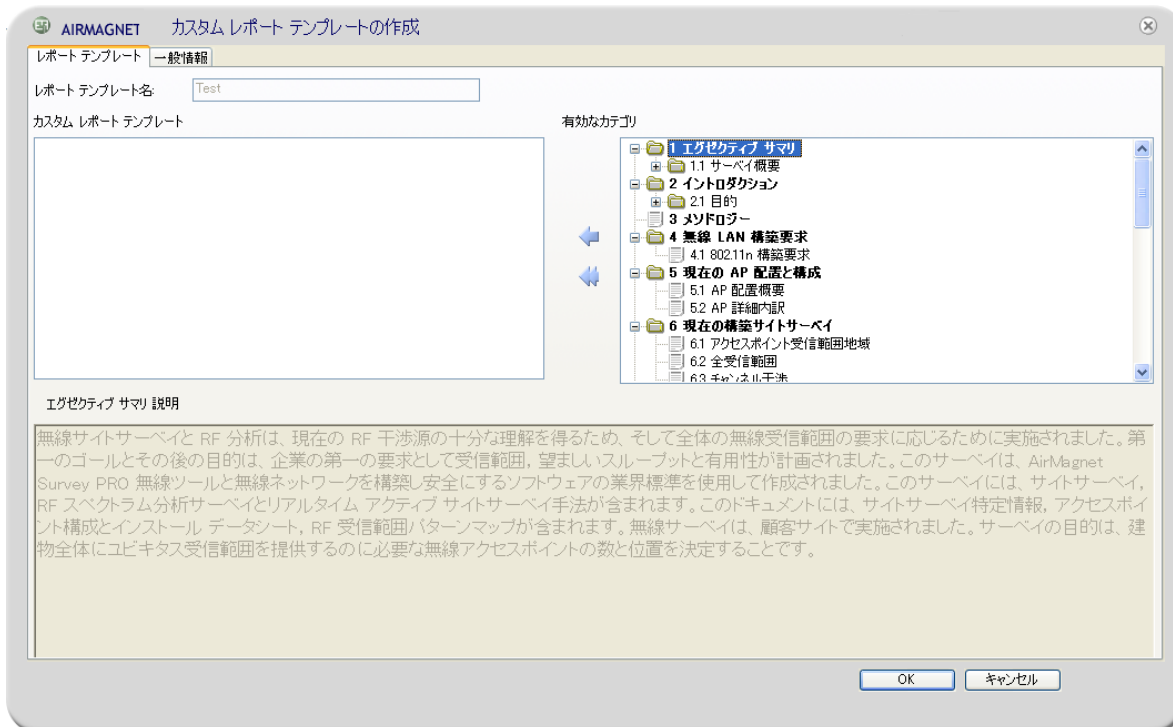
## カスタムレポート

Survey のレポート機能は、ユーザの要件に基づいたカスタムレポートテンプレートを作成および編集できるように拡張されました。特定のセクションは、レポートの実行時にユーザが指定した情報のみが収集されていることを確認し、必要に応じて加減できます。


注意：オリジナルのレポート形式は、レポート画面のデフォルトレポートテンプレートフォルダから操作することができます。

カスタムレポートを作成するには：

1. レポート画面で、カスタムレポートテンプレートフォルダを選択し、 (カスタムレポートテンプレートの作成) をクリックします。
2. 新しいテンプレートの名前を入力し、OK をクリックします。「レポートテンプレートの作成」画面が表示されます。



3. テンプレートへ新しいセクションを追加するには、2つの方法があります。

- 右側ペインのツリーからセクションを選択し、 (追加) をクリック。
- 右側ペインから左側ペインへセクションをドラッグドロップ。

必要に応じて、個々のセクションを指定し（ツリーを展開し、必要な部分のみを選択）、テンプレートに全フォルダを追加できます。

**注意：**セクションがカスタムレポートテンプレートに追加されると、追加したセクション内のテキストを変更することができます。セクションが左側ペインで選択されている場合、その前置きの文章は、ウィンドウの下部に表示されます。必要に応じて、現在の環境の個々のニーズに合わせてカスタマイズするために、単純にテキストを追加または削除できます。セクション自体の名前を変更するためにも使用できます。


4. 必要なすべてのセクションに対して、ステップ 3 を繰り返します。すべての必要なセクションが含まれており、必要に応じて変更された後は、ウィンドウの上部にある [一般情報] タブをクリックします。
5. 目的のフィールドのテキストを入力します。レポートテンプレートに不要な情報でも、現時点で独特な情報を追加しておくことで、将来テンプレートを特定するのに役立たせることができます。

**注意：**レポートをユーザに合わせて調整できるように、表紙と企業ロゴのためにカスタムイメージを入力できます。

**注意：**個々の分布だけでなく、ページごとに表示される AP の数のために必要な様々なヒープマップを設定できます。

6. 表示されている情報が正しいことを確認するために [表紙のプレビュー] をクリックし、終了したら [OK] ボタンをクリックします。新しいテンプレートは、カスタムレポートテンプレートのフォルダ下に表示されます。

テンプレートが作成されると、目的のレポートをダブルクリックするだけで、現在ロードされているデータでレポートを実行します。まだデータファイルがロードされていない場合は、表示画面で目的のデータファイルを表示し、レポートを実行する必要があります。

テンプレートが完了すると、簡単に戻って、テンプレートを選択し、 をクリックして（またはテンプレートを右クリックして、メニューから「編集」を選択して）、必要に応じて変更することができます。

## Meru AP 物理 MAC アドレスのサポート

Meru AP の実際の物理 MAC アドレスを検出して報告するように、パッシブサーベイをサポートしています。

### パッシブサーベイ

- Meru AP の物理 MAC アドレスを表示します。

### アクティブサーベイ

- アクティブサーベイでも、仮想 MAC アドレスに基づくヒートマップを持つこととなります。

### 利用モデル

ヒートマップは、個々の AP の正確な受信範囲を反映することができるようになります。

## 無線 LAN スループットの受信範囲マップの機能

Iperf 統合によるスループットデータの収集をサポートしています。

- Iperf スループット アップリンク/ダウンリンクのデータタイプが追加されました。

## Windows7 64 ビット版のサポート

以下のアダプタで、Microsoft Windows7 64 ビット版をサポートしています。

### 推奨

- Ubiquiti Networks SR71-USB WLAN 802.11a/b/g/n
- D-Link® Xtreme N™ Dual Band USB Adapter (DWA-160) H/W ver. A1 and A2
- Proxim ORiNOCO 8494-US/WD/JP

### 限定

- Netgear RangeMax Dual Band WNDA3100 v1

*注意：Windows XP™ 及び Vista™ の 64 ビット版はまだサポートされていません。*

## AirMagnet Survey Cisco WCS 統合

### AirMagnet Planner との統合

プランナープロジェクトを Cisco WCS へ直接作成し、エクスポートできます。これにより、Cisco WCS 内でこれらの作業を繰り返す必要がなくなるため、マップ、AP の配置位置や他の WLAN 展開のモデリング活動の設定に必要なユーザの時間とリソースを節約できます。

この統合により、WLAN ネットワークの配置と継続的な管理に一般的に関連付けられている無線の計画およびサイトサーベイ作業を繰り返す必要がなくなるため、AirMagnet および Cisco WCS のお客様両方の業務効率を劇的に向上させます。

### **AirMagnet Survey PRO との統合**

AirMagnet Survey は、Cisco WCS に実際のサーベイデータのエクスポートを可能にする業界唯一の無線 LAN サイトサーベイツールです。これは、Cisco のビルトインプランナーモデリング機能を校正するだけでなく、特殊なアプリケーション用には非常に重要です。

例えば、WLAN クライアントまたはタグのロケーションの精度を最大にするためのキャリブレーションサイトサーベイを義務付けるロケーションサービス、またインフラストラクチャの実環境データと予測可能性を検証するためにサイトサーベイの使用を推奨する VoWLAN サービス。

また、ユーザは、AirMagnet サーベイ PRO 内に構築されたプランニング可能性を活用し、Cisco WCS に直接プランナーのプロジェクトを作成し、エクスポートすることができます。

これにより、Cisco WCS 内でこれらの作業を繰り返す必要がなくなるため、マップ、AP の配置位置や他の WLAN 展開のモデリング活動の設定に必要なユーザの時間とリソースを節約できます。

この統合により、WLAN ネットワークの配置と継続的な管理に一般的に関連付けられている無線の計画およびサイトサーベイ作業を繰り返す必要がなくなるため、AirMagnet および Cisco WCS のお客様両方の業務効率を劇的に向上させます。

### **AirMagnet Survey Cisco WCS 統合に関する特別な注意事項：**

- AirMagnet Survey との統合には、Cisco WCS バージョン 7.0 MR1 以降が必須です。
- Cisco WCS は校正のために、最小 150 のデータポイントおよび少なくとも 50 の異なる場所を必要とします。更に、それぞれの異なる場所が少なくとも 8 フィート離れている必要があります。従って、AirMagnet Survey を実行する際には、Cisco WCS サイトに配置された AP のための少なくとも 150 のデータポイントと 50 の異なる場所（各場所が少なくとも 8 フィート離れている）があることを確認してください。サーベイデータをエクスポートするとき（Cisco WCS エクスポート>Survey エクスポート）は、エクスポートされたデータポイントの合計数が表示されます。
- Cisco WCS に XML をインポートする場合：校正モデルが存在しなければ、校正モデルが作成されます。ただし、データポイントはインポートされません。

この制限を克服するには：

1. XML を再度インポートします。妥当性確認が完了した後、上書きオプションを選択します。これにより、データポイントを作成します。校正モデルは、フロアを（XML で提供されるフロアの基準に基づいて）自動的に参照することになります。
2. XML をインポートした後、校正状態は"Not Yet Calibrated"（未校正）となっています。Cisco WCS で校正するには、[Monitor Maps] > [RF Calibration Model] に移動し、新たな校正モデルを選択してください。vendorData のフロア参照が正しく提供されている場合は、"Calibrate" オプションを選択すると、データポイントを確認し、Coverage/Location Heatmaps の PL モデル値を作成します。校正が実行されていない場合は、フロア上の AP 配置は、ヒートマップを表示しません。

- Cisco WCS に Cisco WCS プランナープロジェクトをインポートする場合、次の領域はインポートされません。：カバー領域、除外領域、減衰領域
  - Cisco WCS プランナープロジェクトで作業する場合は、Cisco WCS で定義されている壁の種類のみが有効です。更に、壁の種類を変更することはできません。
  - Cisco WCS の AP 送信電力範囲は、2.4GHz 帯で 1~18dB、5GHz 帯で 1~17dB です。この範囲外の値に設定されたプランナーAP は、Cisco WCS に値をインポートしません。
  - Cisco WCS プランナー機能は、“フィート”単位のみをサポートします。AirMagnet Survey で“メートル”単位で作成されたプランナープロジェクトは、Cisco WCS にインポートするときに“フィート”単位に変換されます。
  - Cisco WCS プランナープロジェクトをインポートする場合、次の AirMagnet Planner の AP 設定がインポートされます。：AP 名、伝搬出力 (mW)、アンテナ
  - Cisco WCS プランナープロジェクトをインポートする場合、次の AirMagnet Planner の AP 設定はインポートされません。：チャンネル、MAC アドレス、IP アドレス、SSID、アンテナの角度や高さ、11n サポート
  - Cisco WCS プランナープロジェクトをインポートする場合、AirMagnet Planner の AP は以下がデフォルトになります。：
    - MAC アドレス : 空白
    - AP タイプ : 1250 \*
    - AP モード : ローカル
    - 11n サポート : 無効
    - 角度 : 0°
    - アンテナモード : セクタ A
    - ダイバーシティ : 有効
- \* 適切なアンテナが選択されている限り、AP モデルは結果のヒートマップには影響しません。
- AirMagnet Planner は、次の AP1250 のアンテナパターンをエクスポートすることができます。AirMagnet Planner でこれら以外のアンテナパターンを選択した場合、手動で Cisco WCS で目的のアンテナパターンを選択する必要があります。

#### 2.4GHz

AIR-ANT4941  
 AIR-ANT2422DW-R  
 AIR-ANT2465  
 AIR-ANT1728  
 AIR-ANT2012  
 AIR-ANT1729  
 AIR-ANT2410Y-R  
 AIR-ANT5959  
 AIR-ANT2506  
 AIR-ANT3213  
 AIR-ANT2422SDW-R

#### 5GHz

AIR-ANT5135DG-R  
 AIR-ANT5145V-R  
 AIR-ANT5160V-R

## 新しい AirWISE コミュニティ

ヘルプメニューから、無線 LAN の専門家のために作成された AirWISE コミュニティ (<http://www.airwisecommunity.com>) に直接リンクすることができます。AirWISE コミュニティには、ディスカッションフォーラム、ブログや、セキュリティ、パフォーマンスおよび無線ネットワークのコンプライアンスのための追加リソースが含まれます。

## .PNG のサポート

PNG 画像ファイル形式をサポートしています。ポータブルネットワークグラフィックス (PNG) は、可逆圧縮を使用したビットマップ画像形式です。

## Iperf サーベイ アップ/ダウンリンク オプション

アップ/ダウンリンク (双方向) アクティブ Iperf サーベイまたはアップリンク (単方向) アクティブ Iperf サーベイのためのオプションが用意されています。このオプションを設定するには、サーベイタイプで“アクティブ Iperf”を選択し、[高度な設定] をクリックします。

*注意：アップ/ダウンリンクがデフォルトで有効です。*

## その他の機能強化

- 手動でアプリケーション内からサーベイのベンダ ID のリストに、ベンダ OUI を追加する機能を提供します。この機能は、[ファイル] > [構成] > [AP グループピン グ] > [現在のユーザ構成 OUI] から利用できます。[OUI 変更を適用する] を選択した後、新しく追加された OUI は AP グループ規則で使用できます。オープンしているデータファイルをクローズし、AP グループと OUI 変更を有効にするために再度オープンしてください。
- バブルウィンドウで凡例しきい値以下 AP を非表示にするオプションを追加しました。この機能は、マップ画面上で右クリックし、[凡例しきい値以下の AP を隠す] オプションを有効にすることで可能です。
- シミュレーション表示の後、プランナーや AirWISE からバブルウィンドウを有効/無効にする機能を追加しました。
- 様々な基準 (AP 名、データタイプ、チャンネルなど) でソートできるように、データフィルタリング機能を拡張しました。
- Bluesocket、Apple、Cisco の OUI を既存のベンダ ID に追加しました。
- アクティブサーベイと Iperf サーベイを実行する場合、アダプタ名の上にマウスオーバーしたときに構成プロファイル (Windows Zero で構成されている) を含めるようにアダプタ名を拡張しました。
- パッシブサーベイのために Meru AP の物理 MAC アドレスを表示する機能を追加しました。

## 新しい無線アダプタのサポート

次の無線アダプタを追加サポートします。

- Intel® Centrino® Advanced-N 6200.
- Intel Centrino Ultimate-N 6300.
- Qualcomm Atheros™ XB112 AR9380 (Microsoft Windows 7 64 ビット用を含む)

## 未加工データの校正

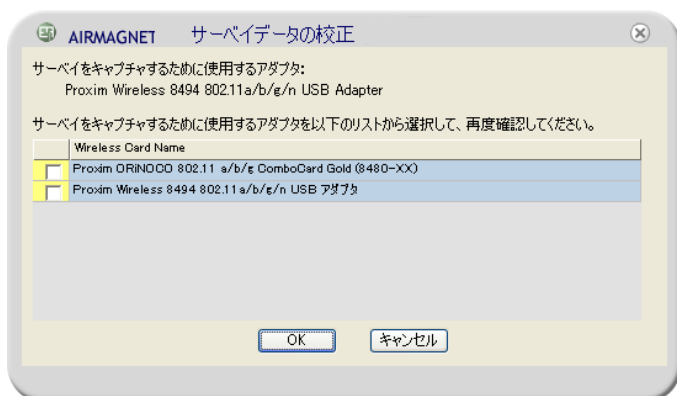
この機能により、未校正の **Survey** データを（データをキャプチャするために使用される無線 LAN カード固有の）校正済みデータへ変換できます。

未加工データを素早く校正するには、プロジェクトウィンドウ内のデータファイル上で右クリックオプションを使用して実行します。サーベイデータの校正ウィンドウで、データをキャプチャするために使用されるカードを選択する必要があります。校正データは新しいデータファイルに保存されます。必要なら、が新しく作成された校正データファイルでのネットワークカードのシミュレーション機能を使用することができます。

この機能は、**AirMagnet Survey 8.0** 以降のデータファイル(.svd)を校正できます。

校正されるデータファイルの種類は、パッシブ、アクティブ、IPerf です。

VoFi、マージ、フィルタおよび校正済みのファイルは校正できません。（未加工データの校正オプションは、グレー表示です。）



## Fluke Networks® OptiView XG® Network Analysis Tablet

Fluke Networks OptiView XG Network Analysis Tablet 上で実行される AirMagnet モビリティアプリケーションは、業界をリードする無線 LAN の分析およびトラブルシューティングソリューションの強力な組み合わせを構築し、そして類のない専用の目的を持ったポータブルプラットフォームを構築しています。Fluke Networks OptiView XG の“オールインワン”ソリューションは、包括的かつ補完的な有線 LAN 分析、無線 LAN 分析およびトラブルシューティング機能を提供します。OptiView XG は、ネットワークとアプリケーションを自動化で分析するための専用のタブレットであり、ネットワークエンジニアが根本原因に辿り着くための最速の方法です。

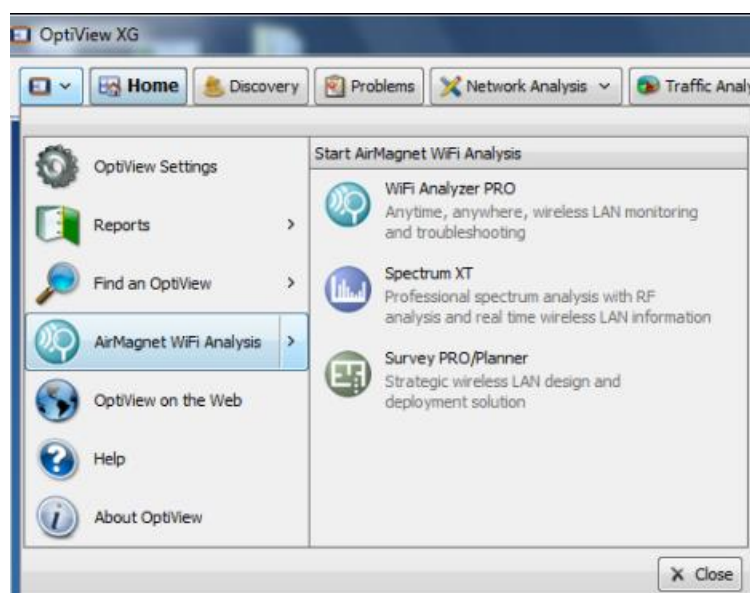
プラットフォーム機能は、次の通りです。

- **タブレット形式**：フィールドでの使用に最適化された大きさで、屋外で読み取り可能なタッチディスプレイ付き。

- **統合された無線機能** : AirMagnet WiFi アナライザを使用するときに 3 つの無線 LAN チャンネルを同時にモニタするために、デュアル 3x3 の 802.11n 内蔵無線 LAN アダプタ、シングル内蔵スペクトル RF アダプタ、USB ベース無線アダプタを含む。
- **アンテナ コネクタ内蔵** : アンテナコネクタと、AirMagnet WiFi アナライザ PRO と AirMagnet Spectrum XT アプリケーションで使用される外部指向および無指向性アンテナの取り付け機構を内蔵。
- **バッテリーのホットスワップ** : 連続動作が可能。
- **延長可能なバッテリー寿命** : プラットフォーム上で利用可能な多くのテストポートのオン/オフのための電力制御アプリケーションによる高度な電源管理。詳細については、以下の"有効にする無線 LAN アダプタ"の項を参照してください。
- **LED インジケータ** : AirMagnet アプリケーションが使用している無線 LAN アダプタの表示や、リンク速度およびトラフィックの存在が一目でわかるステータスを提供。

### ユニークな機能と操作

- Survey PRO は OptiView XG にプリインストールされ、Windows の[All Programs]メニューから、または OptiView XG デスクトップから起動することができます。



- 一度に複数チャンネルの連続モニタは、内蔵無線 LAN アダプタを経由して 2 つの組み込み 802.11n 3x3 によって提供されます。
- マルチ無線の選択をサポートします。アプリケーションが起動すると、使用するアダプタの選択を求めるメッセージが表示されます。 :
  - AirMagnet Use Only アダプタ : 常にデフォルトで選択されている “Wi-Fi 2” のみを使用します。



- **General Use** アダプタ：同時マルチアダプタ分析用に“Wi-Fi 1”が利用可能で、OptiView XG アプリケーションと共有します。Survey PRO は、OptiView XG アプリケーションよりも優先されます。General Use “Wi-Fi 1” アダプタがスキャン用に選択されると、OptiView XG はアダプタへのアクセスをせず、実行中の如何なるテストも停止します。
- **AirMagnet Survey PRO** と **OptiView XG** は、リンクオペレーションのために“Wi-Fi 1”を同時に使用することができます。Survey PRO のアクティブテストを実行しているときは、テスト結果の歪みを避けるために、OptiView XG のアダプタ使用を中止することをお勧めします。
- 2つの無線 LAN アダプタのそれぞれには、シングルリンクのステータスインジケータがあります。無線 LAN アダプタを使用しているときに、LED は点灯します。LED の色は、リンク速度（または無線 LAN アダプタが AirMagnet アプリケーションによって使用されていること）を示しています。トラフィックを示す LED の点滅は、リンク中に現れます。表 1 を参照してください。

色	リンク速度	標準
緑	最大 11 Mbps まで	802.11b
青	最大 54 Mbps まで	802.11a/g
白	最大 300 Mbps まで	802.11n (1つまたは2つの空間ストリームあり)
マゼンタ	350 Mbps or more	802.11n (3つの空間ストリーム (3x3) あり)
オレンジ	無線 LAN アダプタは AirMagnet アプリケーションが使用中	

表 1: 無線 LAN インジケータの色 リンク速度標準

- The user interface has been resized for OptiView XG screen resolution for improved usability. ユーザインターフェースは、ユーザビリティの向上のために、OptiView XG 画面解像度用にサイズ変更されています。
  - 注意：サーベイと表示のビューを表示しているときに、いくつかのマップビューコントロールボタンは OptiView ディスプレイ上に表示されないことがあります。これらは、オーバーラップ、全体、CH ごと、および 3D を含みます。これらのコントロールにアクセスするには、[表示]メニューから必要なオプションを選択します。
- AirMagnet Survey PRO 画面の多くは、ドラッグアンドドロップをサポートしていません。OptiView XG プラットフォームでは、画面は、アイコンを移動するのではなく、スクロールすることができます。これは、画面がズームされ、スクロールバーがあ

る場合に発生します。この動作を制御する機能である **Single Finger Panning** を無効にするには、次の手順を実行します。

1. Windows コントロールパネルを開く。
2. “Pen and Touch”を開く。
3. “Panning”タブを選択する。
4. “Turn on Single Finger Panning”のチェックを外す。

---

## システムの要件

注意：特定の無線アダプタに対して、**Windows 7 64 ビット版**をサポートしています。詳細は、サポートされているアダプタのリストを参照してください。 **AirMagnet** スペクトラムアナライザがインストールされ、ノート PC 上のスタンドアロンアプリケーションとして使用されている場合は、**Windows XP™ (SP2)** を使用してください。

### ノート PC / タブレット PC :

- Microsoft® Windows 7 Enterprise/Professional/Ultimate、Vista™ Business/Ultimate (SP2)、XP™ Professional (SP3)、または Tablet PC Edition 2005 (SP3)
- Intel® Pentium® M 1.6 GHz (Intel® Core™ 2 Duo 2.00 GHz 以上を推奨)
- Windows XP™ の場合は 1 GB のメモリ (2 GB を推奨)、Windows Vista™ および Windows 7 の場合は 2 GB 以上が必須
- 800 MB のディスク空き容量
- Cardbus、ExpressCard スロット、USB ポート、またはミニ PCI スロット (いずれか該当するもの)
- 複数のアダプタを使用する場合は、PC に複数のスロットがあること (マルチアダプタキットの利用を推奨)
- AirMagnet がサポートしている無線アダプタ
- オプションのスペクトラムアダプタおよびライセンス (スペクトラムデータおよびヒートマップの表示に必要 ; **PRO** のみ)。  
AirMagnet Spectrum XT、AirMagnet Spectrum Analyzer、Fluke Networks AnalyzeAir、または Cisco Spectrum Expert との統合。  
注意 : Spectrum XT アダプタは USB タイプで、他のスペクトラム製品は Cardbus (PCMCIA) タイプです。
- Microsoft® MapPoint 2004 以上 (MapPoint 統合機能を使用して大規模な屋外サーベイを実行するために必要 ; **PRO** のみ)
- インターネット接続 (屋外サーベイで Microsoft® Virtual Earth との統合機能を使用する場合に必要 ; **PRO** のみ)
- AirMagnet Survey でサポートしている形式のサイトマップ (サポートしている形式は .bmp、.dib、.dwg、.dxf、.emf、.gif、.vsd、.jpg、または .wmf)
- Google Earth (屋外サーベイの GPS データを Google Earth にエクスポートする場合に必要 ; **PRO** のみ)

## ネットブック (EXPRESS のみ) :

- Microsoft® Windows XP™ Home、Windows 7 Home Premium および Windows 7 Starter edition
- Intel® Atom N270/1.6 GHz CPU or N470 Processor (1.83 GHz, 667MHz FSB)
- 1 GB (2 GB を推奨)
- 200 MB のディスク空き容量
- 1024×600 のディスプレイ解像度
- Cardbus、ExpressCard スロット、USB ポート、またはビルトインスロット (いずれか該当するもの)
- AirMagnet がサポートしている無線アダプタ

## Fluke Networks OptiView® Series II/III Integrated Network Analyzer

- Microsoft Windows XP™ Professional (SP3)
- Intel® Pentium® M 600 MHz
- 512 MB のメモリ
- 800 MB のディスク空き容量
- AirMagnet 802.11a/b/g/n 無線 PC カード、Fluke Networks 802.11 a/b/g/n、Fluke Networks 802.11 a/b/g のいずれかの CardBus アダプタ
- Fluke Networks OptiView では Planner はサポートされません。

注意 : Fluke Networks Optiview ではマルチアダプタはサポートされません。

## Fluke Networks OptiView® XG Network Analysis Tablet

- Microsoft Windows 7™ Professional ( SP1), 64 bit
- Intel® Pentium® 1.2 GHz
- 4 GB のメモリ
- 128 GB SSD
- Atheros®-based 802.11a/b/g/n アダプタ x2 内蔵
- RF スペクトラムアダプタ x1 内蔵
- FUSB ポートx3
- 1024 x 768 タッチパネルディスプレイ

---

## サポートされている Wi-Fi デバイス

AirMagnet Survey/Planner ソフトウェアが稼動するためには、AirMagnet にサポートされている Wi-Fi カードが必要です。AirMagnet がサポートしている無線アダプタの最新の完全リストについては、[http://www.toyo.co.jp/airmagnet/w\\_products.html](http://www.toyo.co.jp/airmagnet/w_products.html) の製品情報を参照してください。

AirMagnet がサポートする無線アダプタのリストは、Fluke Networks OptiView XG には適用されません。プラットフォームは、2 つの 3x3 802.11n 内蔵無線 LAN アダプタと、AirMagnet WiFi アナライザソフトウェアを操作するために使用されるシングル内蔵スペクトル RF アダプタを持っています。

---

## バグ修正

### ビルド 25408

1. シミュレーション画面上でヒートマップの再計算を支援するためのアルゴリズムを強化しました。(30845)
2. フロアプランマップがレポートで半分にカットされる問題を修正しました。(30379).
3. シミュレーションを既存の同じシミュレーション名に保存すると、AirMagnet Survey がクラッシュする問題を修正しました。(30151)
4. 5GHz 帯 AP が 2.4GHz タブにリストされているシミュレーションツールの問題を修正しました。(29538)
5. “エイリアス名” が、フィルタリングされたデータファイルに含まれない問題を修正しました。(30857)
6. フィルタリングされたデータファイルを作成すると、AP 電源が 100 mW にリセットされる問題を修正しました。(30856)
7. AP を追加した後に、シミュレーションデータの割り当てタブが更新されない問題を修正しました。(30465)
8. ビルド 22442 で、パッシブサーベイの間にアドホックデバイスを検出する機能が壊れていた問題を解決しました。(30878)
9. カスタムサーベイレポートで、画像、サイトマップおよびグラフがカットされる問題を修正しました。(30524)
10. カスタムサーベイレポートの個々の信号分布で重複画像を表示する問題を修正しました。(30477)
11. アプリケーションが再起動されるまで新しく追加された “OUI” が表示されない、AP グループの問題を修正しました。(30468)
12. 複数のサーベイが一旦マージされると、“AP on a stick” メソッドで作成された同じアクティブサーベイが全ての AP ロケーションを表示しない問題を解決しました。(30338)
13. 色凡例の変更がレポートに反映されない問題を修正しました。(30118)
14. 英語以外の OS での AutoCad DWG のマージンの問題を修正しました。この問題は、フロアプラン上でオーバーレイするとき、受信範囲ヒートマップを変更するために、いくつかの DWG フロアプランをインポートする原因となります。(30493)

### ビルド 22442

1. ビューアのみ複数のインスタンスの起動を有効にする問題を修正しました。(29105)
2. 干渉が次のサーベイに含まれているときのスペクトラム統合での問題を修正しました。(30153)
3. スピードマップのユーザインタフェースに周波数 5825 (チャンネル 165) が表示されていない問題を修正しました。(29988)

## ビルド 22085

1. ファイル構成がクラッシュする表示のみモードでの問題を修正しました。(29036)

## ビルド 22051

1. AP グループが有効になっている場合、AP のエイリアス名が保存されない問題を修正しました。(20480)
2. 表示画面で AP を配置した後にデータ処理をキャンセルすると、アプリケーションが予期せず閉じる問題を修正しました。(22010)
3. ビュー専用モードで動作しているときに PHY データレートマップ機能（ [ファイル] > [構成] > [PHY データレートマップ...] ）を変更しようとする、アプリケーションが予期せず閉じる問題を修正しました。(22332)
4. サーベイデータファイルを既存のプロジェクトにインポートしようとする、ファイル名が使用されているかどうかにかかわらず、ファイル名が既に使用されていることを示すメッセージが表示される問題を修正しました。(23526)
5. 信号/ノイズ分布のデータの左側部分がデフォルトレポートに切断される問題を修正しました。(25918)
6. Google Earth へのエクスポートで発生するエラーメッセージを修正しました。(25961)
7. 自身の SSID を能動的にブロードキャスト送信していない AP に対してアクティブツールを使用すると（Windows XP を実行している場合）、Intel 4965/5300 a/b/g/n アダプタまたは USB a/b/g/n アダプタを使用している場合は正しく動作しない問題を修正しました。(26394 & 26459)
8. Survey アプリケーションの外部（つまり、Windows のゼロ構成など）で構成された既存の無線プロファイルを持つ SSID に対して DHCP ツールを使用すると、ツール画面がぼやけて数分間反応しなくなった後、アソシエーションに失敗する問題を修正しました。(26436)
9. WEP 認証を使用して AP に対して Intel 4965、5100、または 5300 カードのいずれかを使用している場合、アクティブツールが正しく動作しない問題を修正しました。(26077)
10. データをクローズして再オープンされた後フィルタを作成すると、フィルタリングされたデータファイルが選択された AP を正しく反映していないという問題を修正しました。(26592)
11. データのリフレッシュ後の自動位置アルゴリズムによって自動配置された AP を移動するシミュレーション画面上でのバグを修正しました。(26594)
12. データファイルとその関連経路情報を削除した後に、“サーベイ経路のロードに失敗しました”と表示されるというエラーを修正しました。(27202)
13. 表示のみのライセンスで動作しているとき、5GHz のシミュレーション AP を配置する際のチャンネル情報が指定されていない問題を修正しました。(27232)
14. データをフィルタリングするときに、レポートを 2 回実行しなければならない問題を修正しました。(27236)
15. センサー配置モードでセンサーを追加/移動するときにクラッシュする問題を修正しました。(28031)
16. プランナーアドバイザーで小数点以下を無視する問題を修正しました。(28189)

---

## 既知の問題

この節では、AirMagnet Survey の既知の問題について説明します。

1. AirMagnet Survey の起動時に Novell クライアントがソフトウェアロードプロセスと干渉して、失敗することがあります。これを解決するには、Novell クライアントを無効にしてください。 (11339)
2. 二次的または三次的なデータが存在しないプロジェクトで、第 2 および第 3 レベルのヒートマップ（第 2 または第 3 の受信範囲）を表示しようとする、一次的なヒートマップが消えることがあります。プロジェクトを閉じて再び開くと、データ表示が復元されます。 (15950)
3. サーベイがアクティブなときにコンピュータがスタンバイモードになると、サーベイが予期せずに関することがあります。 (18131)
4. 特定の AP に対してアクティブサーベイを実行しているときも、ローミングが発生することがあります。 (19712)
5. [差分表示] を使用して 2 つのサーベイファイルのノイズレベルを比較すると、領域の緑の部分のノイズが小さく表示されます。現在、ヒートマップの表示が逆さまになっています（ノイズが小さい場合は赤、大きい場合は緑）。 (20109)
6. ファイル名に大文字が含まれているレポートはエクスポートできません。 (20260)
7. シミュレーション画面の「シミュレーション前」部分で行ったデータタイプの選択が、「シミュレーション後」パネルに正しく反映されません。 (20401)
8. シングルプロジェクトマルチビュー機能を使用すると、全てのビューのデータタイプの選択に、最後にロードしたサーベイデータファイルのデータタイプが反映されることがあります（つまり、パネル 1 でパッシブサーベイを行って、パネル 2 でアクティブサーベイを行うと、パッシブパネルでアクティブなデータを表示できるようになることがあります）。 (20486)
9. スペクトラム情報を含むサーベイデータファイルが、ロード直後に正しく表示されません。スペクトラムデータを表示するには、いったんサーベイパスの選択を解除してから再び選択してください。 (20521)
10. 新しいプロジェクトをシングルプロジェクトマルチビュー機能にインポートすると、アプリケーションの任意の場所をクリック可能になる前に、画面が複数回更新されることがあります。 (20528)
11. 差分表示機能を使用して [PHY データレート (ダウン) ] データを比較しようすると、代わりに 2 つのサーベイ間の信号強度が比較されることがあります。 (20859)
12. マージしたファイル名が 64 文字を超えることはできません。 (21804)
13. インストール時、ユーザ定義ファイルを含む既存の全ての AirWISE ポリシーが読み取り専用設定され、それ以降 Survey アプリケーションが削除できなくなります。これを回避するには、AirMagnet Survey¥RequirementPolicy ディレクトリからファイルを手動で削除します。 (21834)
14. 電話がまだローミングされていなくても、初めて VoFi サーベイを開始したときに「ローミング成功」メッセージウィンドウが表示されることがあります。 (22918)
15. 初めて VoFi サーベイを開始すると、SSID が検出されるまで SSID リストにまず AP 名が表示されることがあります。 (22988)
16. 端末検出機能を使用している場合、一部の端末が間違っ信号レベルリストで表示されることがあります。 (25399)

17. USB a/b/g/n ネットワークアダプタのいずれかが使用されている場合、サイトサーベイツールにより損失が計算されないことがあります。(25842)
18. 初めてカスタムレポートをエクスポートしようとしたときに、“電子メールプログラムがありません”というエラーが表示される場合があります。エクスポートプロセスは、エラーメッセージを無視して再試行した後に動作します。(28080)
19. アプリケーションは、最初の起動時に設定メニューの **802.11** タブで“アドホック”モードをデフォルトとすることがあります。(28258)
20. Windows 7 64 ビット版では、データは **3D** で表示されません。(28637)
21. 範囲インジケータの色が時々黒くなっていることがあります。(28732)
22. Cisco Prime/WCS は、不正なフロアプランを表示することがあります。これを回避するには、生成された jpg ファイルを削除します。  
(rm -f <WCS DIR>/webnms/webacs/images/domainmaps/\*\_f.jpg)
23. 特定の WCS CAD 画像では、拡大すると詳細が表示されなくなることがあります。(29604)
24. CAD 機能へのエクスポートを使用する場合は、新しい AutoCAD 画像はエクスポートされないことがあります。(29660)
25. Meru 仮想ポートまたは仮想 Cell AP に対してアクティブまたはアクティブ lperf サーベイを行うと、表示される MAC アドレスが仮想 BSSID になる。(31317)

---

## リリース履歴

2012/1/25: AirMagnet Survey 8.2 リリース (ビルド 25451) — 日本語翻訳版

---

## テクニカルサポート

AirMagnet 製品の技術的なお問い合わせ先は次のとおりです。

- お問い合わせ先: 株式会社 東陽テクニカ
- 電話: 03-3279-0771
- 受付時間: 9:30-12:00、13:00-17:30  
(土・日・祝日および弊社休業日を除きます)
- FAX: 03-3246-0645
- E-mail: [airmagnet\\_support@toyo.co.jp](mailto:airmagnet_support@toyo.co.jp)
- Web サイト: <http://www.toyo.co.jp/airmagnet/>

# AirMagnet Planner 8.2

# リリースノート

2012年1月25日

---

## 目次

はじめに .....	1
特記事項 .....	1
重要事項 .....	1
新機能 .....	2
システム要件 .....	3
バグ修正 .....	4
既知の問題 .....	5
リリース履歴 .....	6
テクニカルサポート .....	6

---

## はじめに

本書は、AirMagnet Planner 8.2 リリース（ビルド 25451）の新機能およびシステム要件と、いくつかの既知の問題についてまとめたものです。

---

## 特記事項

- CAD イメージ(.dwg)をプロジェクトにインポートする場合は、[CAD へエクスポート] オプションを使用すると、イメージに追加された AP や壁データと一緒にイメージをエクスポートできます。詳細は、ユーザーガイドの“CAD へエクスポート”を参照してください。
- AirMagnet Survey は、Cisco WCS 統合のための既存のサポートに加え、現在は Cisco Prime NCS 統合をサポートしています。ユーザは、Planner プロジェクトを作成し、Cisco Prime NCS へエクスポートすることができます。

---

## 重要事項

AirMagnet Planner は OptiView INA ではサポートされないため、Planner の機能を有効に活用するには別個のコンピュータにインストールする必要があります。

**AirMagnet Planner** を入手してインストールするには、以下の手順に従います。

1. インターネットブラウザを開いて、MyAirMagnet にログインします。
2. Planner のライセンスファイルと Survey インストーラを MyAirMagnet の

[Registered Products/Downloads (登録された製品/ダウンロード)] セクションからダウンロードします。ライセンスは、基本の Survey ライセンスの登録後にのみ取得できます。

- ダウンロードしたライセンスを使用して、2 台目のコンピュータにアプリケーションをインストールします。

## 新機能

- Windows7 64 ビット版のサポート
- 新しいアンテナパターン
- その他の機能強化
- Fluke Networks® OptiView XG® Network Analysis Tablet

### Windows7 64 ビット版のサポート

Microsoft Windows7 64 ビット版をサポートしています。

### 新しいアンテナパターン

以下ベンダの各種 AP 用のいくつかの新しいアンテナパターンがサポートされています。

- Aruba
- Cisco
- Meraki
- Motorola
- Fortinet
- Aerohive
- Meraki

### その他の機能強化

- プランナーの AP リスト表示機能が、出力とアンテナの設定にグループ変更できるように改善されました。この機能を使用するには、目的の AP を選択し、グループの変更を有効にし、出力やアンテナの設定を変更し、[適用] をクリックし閉じます。
- プランナーのオブジェクトマネージャが、現在のプランにあるすべての既存の領域や壁を変更できるように修正されました。
- プラン上の AP をクリックすると、チャンネル/SSID 画面上の AP がハイライトされるように改善しました。
- アドバイザが周波数あたりの AP 出力を設定できるように改善しました。
- 0, 90, 180, および 359°を表すハッシュマークによるアンテナ角度の設定を改善しました。

### Fluke Networks® OptiView XG® Network Analysis Tablet

Fluke Networks OptiView XG Network Analysis Tablet 上で実行される AirMagnet モビリティアプリケーションは、業界をリードする無線 LAN の分析およびトラブルシューティングソリューションの強力な組み合わせを構築し、そして類のない専用の目的を持ったポー

ダブルプラットフォームを構築しています。

Survey/Planner PRO は、OptiView XG にプリインストールされています。詳細は、Survey リリースノートを参照ください。

---

## システム要件

**注意：** 64 ビットオペレーティングシステムはサポートされていません。

ノート PC / タブレット PC :

- Microsoft® Windows 7 Enterprise/Professional/Ultimate、Vista™ Business/Ultimate (SP2)、XP™ Professional (SP3)、または Tablet PC Edition 2005 (SP3)

**注意：** AirMagnet スペクトラムアナライザを同じマシンでスタンドアロンアプリケーションとして使用している場合は、Windows XP™ SP2 を使用してください。

- Intel® Pentium® M 1.6 GHz (Intel® Core™ 2 Duo 2.00 GHz 以上を推奨)
- Windows XP™ の場合は 1 GB のメモリ (2 GB を推奨)、Windows Vista™ および Windows 7 の場合は 2 GB 以上が必須
- 800 MB のディスク空き容量
- AirMagnet Survey がサポートしている形式のサイトマップ (サポートしている形式は bmp、dib、dwg、dxf、emf、gif、vsd、jpg、png、wmf です)

タブレット PC :

- Microsoft® Windows Tablet PC Edition 2005 (SP3)

**注意：** AirMagnet スペクトラムアナライザを同じマシンでスタンドアロンアプリケーションとして使用している場合は、Windows XP™ SP2 を使用してください。

- Intel® Pentium® M 1.6 GHz 以上
- 1 GB のメモリ (2 GB を推奨)
- ハードディスクに 800 MB の空き容量
- AirMagnet Survey がサポートしている形式のサイトマップ (サポートしている形式は bmp、.dib、.dwg、.dxf、.emf、.gif、vsd、.jpg、png、.wmf です)

### Fluke Networks OptiView® XG Network Analysis Tablet :

- Microsoft Windows 7™ Professional ( SP1), 64 bit
- Intel® Pentium® 1.2 GHz
- 4 GB のメモリ
- 128 GB SSD
- Atheros®-based 802.11a/b/g/n アダプタ x2 内蔵
- RF スペクトラムアダプタ x1 内蔵
- FUSB ポート x3
- 1024 x 768 タッチパネルディスプレイ

---

## バグ修正

### ビルド 25408

1. オブジェクトの dB 値や減衰インデックスが変更された場合、表示される壁やエリアのプロパティが正しくない可能性がある問題を修正しました。  
(27665)
2. Windows7 Enterprise でナビゲーションバー上にマウスを移動すると、カーソルが上下矢印として表示されることがある問題を修正しました。(28479)
3. 5GHz 帯 AP のための 300Mbps の最大 PHY データダウンレートが表示されない問題を修正しました。(30347)
4. AP を選択するためにマウスのトラッキングパッドを使用すると、別の AP のロケーションを移動してしまう問題を修正しました。(30912)
5. 包括的な領域を使用中に、アドバイザーの AP 配置に見られる信号受信範囲のギャップをカバーするためのアルゴリズムを改善しました。(30093)
6. チャンネルソートを使用したときに、2 つの間違った AP を選択することによって生じた AP 選択を修正しました。(30646)
7. 802.11a AP 上で正しくないスループットスケールを示すレポートの問題が解決されました。(30476)
8. いくつかのレポート画像が右側でカットされる Windows64bit Ultimate での問題を修正しました。(30433)
9. 14. 英語以外の OS での AutoCad DWG のマージンの問題を修正しました。この問題は、フロアプラン上でオーバーレイするときに、受信範囲ヒートマップを変更するために、いくつかの DWG フロアプランをインポートする原因となります。(30493)
10. 仮想 802.11n 以外の AP は、予測データレートを計算するために PHY データレート（速度）マップを使用していない問題を修正しました。(30737)

### ビルド 22141

1. 処理が停止するアドバイザーの問題を修正しました。(29159)
2. 1140, 1040 および 3500 AP のための Cisco アンテナパターン名を改善しました。  
(29139)
3. プランナー壁のドロップダウンリストに既存のグローバル dB 値を含むように改善しました。(29108)
4. プランナーレポートに、チャンネル干渉、PHY データレートが欠落しているのを修正しました。(29137)

### ビルド 22051

1. プランナーアドバイザーで小数点以下を無視する問題を修正しました。(28189)

---

## 既知の問題

この節では、AirMagnet Planner の既知の問題について説明します。

1. Planner で、上向きアンテナと下向きアンテナが区別されません。(12810)
2. バーチャルサーベイレポートに、雑音および再試行レートのヒートマップが存在することがあります。しかし、それらのデータはバーチャルサーベイではサポートされません。(13612)
3. 初めて Planner を起動すると、直接サーベイページに移動することがあります。(13650)
4. 描画領域で、プランの信号強度が実際の環境よりも弱くなることがあります。
5. 大規模なサイトで、デフォルトのサンプリング密度を使用すると、プランの処理時間が非常に長くなる場合があります。
6. Planner のヒートマップが「D」サイズ用紙を使用して正しく印刷されないことがあります。(15905)
7. プランナーアドバイザーにより、壁の端または AP 除外領域の近くに不適切に AP が配置されることがあります。(16403)
8. Planner 画面で [ファイル] > [構成...] > [AP グループ] をクリックすると、エラーが表示されることがあります。これを回避するには、表示画面から AP グループのプロパティを変更します。(17167)
9. 「サーベイデータの処理中」ウィンドウに、処理中の AP が一部表示されないことがあります。(19608)
10. プロジェクトを閉じた後、Planner アプリケーションがメモリを正しく解放しないことがあります。(20078)
11. [ファイル] > [印刷プレビュー] コマンドを実行すると、別の画面に移動できないことがあります。これを回避するには、いったんアプリケーションを閉じてから再度起動します。(20333)
12. AirMagnet Planner の終了時に、配置された AP のユーザ指定の IP アドレスが正しく保存されないことがあります。(20472)
13. プランナーアドバイザーを使用して作成されたレイアウトが、指定された領域を 100% はカバーしないことがあります。これを回避するには、カバー範囲のすき間に追加の AP を手動で配置します。(20549)
14. 保存されていないデータのレポートを表示しているときに Planner を終了しようとすると、アプリケーションが予期せず閉じることがあります。(20862)
15. レポート画面で [エクスポート] - [テキスト] を使用すると、プロセスが完了するまでアプリケーションがプロセッサとメモリを大量に消費してしまいます。(20947)
16. バージョン 7.1 より前に作成されたバーチャルサーベイプロジェクトで、表示画面に予測 PHY データレートダウンリンク情報が正しく表示されないことがあります。(25047)
17. 802.11n サポートが有効になっていない AP の二次的なチャンネルの設定を確認するよう求められることがあります。(25468)
18. カスタムレポートを実行する前に、表示画面でプランナーデータを表示する必要があります。(27782)
19. 時々、線として表示される領域が選択できない場合があります。この問題を回避するには、Ctrl+ Z を使用して最後のクリックを反転させるか、または [全てのオブジェクトをクリア] を使用して全ての領域を削除し、領域を再度作成してください。

(28675)

20. 特定のCisco WCSのCADイメージでは、拡大すると詳細が表示されなくなることがあります。(29604)
21. 特定の場合に、DWGまたはDXFイメージを使用すると、Cisco Prime NCS/WCSでのプランナーの壁の位置がずれることがあります。
22. 特定の場合に、DWG または DXF イメージを使用すると、Cisco Prime NCS/WCSでのプランナーの AP の位置がずれることがあります。

---

## リリース履歴

2012/1/25: AirMagnet Planner 8.2 リリース (ビルド 25451) – 日本語翻訳版

---

## テクニカルサポート

AirMagnet 製品の技術的なお問い合わせ先は次のとおりです。

- お問い合わせ先: 株式会社 東陽テクニカ
- 電話: 03-3279-0771
- 受付時間: 9:30-12:00、13:00-17:30  
(土・日・祝日および弊社休業日を除きます)
- FAX: 03-3246-0645
- E-mail: [airmagnet\\_support@toyo.co.jp](mailto:airmagnet_support@toyo.co.jp)
- Web サイト: <http://www.toyo.co.jp/airmagnet/>